

セパレートボデーのヒサマツHD 中小で中継輸送を

交流会を開催

送を促進する交流会を、トラックの「セパレートボデー」を製造・販売するヒサマツホールディングス（久松孝治社長、大阪市阿倍野区）が22日に開催。東京都内の会場には、セパレートボデーをすでに導入している運送企業など約20社が全国から参加し、運用事例をそれぞれ紹介した。

中継輸送で協力できる相手方を。中小同士による中継輸

前年から製造を開始。同社によるとセパレートボデーは8年

ため積荷重量も1リガールの装着がない

単独では成り立ちに

（西口訓生）

これまで全国で約120台導入されている。関東、関西をはじめ東北、中国、九州の企業も導入済みだ。

同社によると、同類製品の「スワップボデー」より荷台の内高が10センチ以上高く、また荷台を自立させるためのアウト

ト以上多く取れる。シャシーとつなぐ際、荷台の前面距離も短いのも利点だという。

ヒサマツホールディングスの隅谷奉功専務は、「交流会開催は初めて。交流によって中継輸送に活路を見出していただければ」と話す。



乾杯前のあいさつをする、導入企業「萬運輸」の東海林憲彦社長（右）。左正面がヒサマツHD・久松社長

くい。中継輸送促進のためセパレートボデー普及を図りたい同社は、中継輸送の相手方同士をマッチングさせたいところだ。

運用事例紹介で、参加した志和貨物自動車（広島県東広島市）は、「セパレートボデーで